

ゆるキャラ作成を目的とした学生地理巡検の実践報告

黒田 圭介*1 ・ 宗 建郎*2

Report of Geographical Excursion for the Purpose of Creating a “Yuru-Chara”

Keisuke KURODA and Tatsuroh SOH

【要約】本稿はゆるキャラ作成を目的とした地理巡検の実践報告であるが、以下のことが明らかとなった。1)多くの受講者(班)が地域の特徴を反映したゆるキャラを作成した一方で、鯉のみを描いた班があった。2)その原因として、地域の特徴を反映した図案化の必要性やコンセプトの明確化などを、キャラ企画段階で強調しなかったことが考えられる。3)作成されたゆるキャラ全体を俯瞰的にみると、島原市をPRしているようにみえた。

【キーワード】ゆるキャラ, 地理巡検, 商店街調査, 長崎県島原市

1. はじめに

本稿は、筆者の一人である黒田が以前、非常勤講師として担当していた、地理学 I (西南学院大学人間科学部児童教育学科)の講義内で実施した学生地理巡検の実践報告である。

黒田がこの講義を担当していた当時、主に小学校教員を目指す学生に対する地理調査法の習得を企図し、徳山市(2016年)、島原市(2017年)、そして柳川市(2019年)に実際に赴いて、地域調査を実習形式で実施していた。そしてその結果をもとに、自治体や商店街をモチーフとした「ゆるキャラ」の作成を行っていた。特に2017年に実施した、長崎県島原市の商店街を対象とした巡検(以下、この巡検を、ゆるキャラ巡検と略す)では、ゆるキャラの作成に主眼を置いて巡検を行った。

ところで、なぜその巡検は、ゆるキャラの作成に主眼を置いたのか、その理由から明らかにしておく。詳しくは次章にて言及しているが、ゆるキャラは単にかわいいキャラクター、というわけではなく、その意匠には、地元の特徴や特産品などがあしらわれており、名前には自治体名が入ることが多いなど¹⁾、郷土をPRする性質が盛り込ま

れた独特な特徴を備えている(図1)。この特徴が、小学校生活科の「まちたんけん」の学習に活かすことができるのではないかと、という可能性を当時の筆者らが感じ、小学校教員を目指す学生向けに、地域調査法指導の一形態としてこのゆるキャラを地理教材化した経緯がある。興味を持って郷土を丹念に調べ、明らかになったその特長をキャラクター化する過程で、郷土への愛着をより育む活動へと昇華できる可能性が期待でき、そのような教育を実行できる小学校教員の輩出を願って、特に野外巡検における調査結果のまとめの活動に、ゆるキャラの作成を導入してきた。

本稿では特に、小学校教員養成の地理系講義や、生活科・社会科教育法の講義担当者が、「郷土への愛着を育む」ことを目的とした地理巡検を企画・実施する際の参考資料となるよう心掛け、本稿の手法における若干の注意点にも言及する。

なお、本稿は、筆者らが2017年に地理教育学会²⁾および日本地理学会秋季大会³⁾で口頭発表した内容を骨子とし、これに新たな知見を加えて再構成したものである。

*1 佐賀大学教育学部 *2 志學館大学人間関係学部

2. ゆるキャラについて

ゆるキャラは、その考案者、というよりは発見者であり、その提案を行ったみうらじゅん氏による造語で、「ゆるゆるのキャラクター」を略したものである⁴⁾。一般的に、自治体のPRに使用される着ぐるみのマスコットキャラクターのことを指す。さて、この「ゆるゆる」とは、みうらじゅん氏によると、「地域の特産品等を盛り込みすぎてよく理解できないキャラクターになってしまっており、さらにこれが着ぐるみなった時の不安定感が愛らしく、見ていて癒される⁴⁾」とのことが語源のようで、ゆるキャラを本来の意味で正しく見つめるためには、氏独自の視点や解釈、趣向を理解しておく必要がある。

しかし昨今においては、このゆるキャラには、その名前、デザイン、行動様式、性格などの属性設定に関して、地域の様相を簡潔かつ的確に反映したものが多く。さらに、「物語性」を付与することで、愛着をもてるように工夫されている場合もあり、見た目はとぼけた感じでかわいいキャラクターであることも多いが、その実、綿密なマーケティングのもと生み出されていることが示唆されるものも存在する。例えば、ゆるキャラ巡検を実施した自治体である長崎県島原市公式ゆるキャラ「しまばらん」は、漫画やアニメ、ゲームなどを展開する人気コンテンツ「妖怪ウォッチ」の作者がデザインしており、先に述べたみうらじゅん氏の定義にはあてはまらないような、洗練されたデザインとなっている⁵⁾。

また、2016年ゆるキャラグランプリ^{註1)}で総合1位を獲得した、高知県須崎市のPRキャラクター「しんじょう君」の風貌は(図1)、同市にかつては生息していたが、現在は絶滅してしまった「ニホンカワウソ」をデフォルメしたものであり、名前は同市を流れる新庄川を由来としている⁶⁾。頭部にはPRのためか、同市の名物「鍋焼きラーメン」を模した、脱着可能な帽子があしらわれている。さらに、このしんじょう君には「カワウソの友達を探しに旅にでている」という、絶滅してしまったニホンカワウソの現状を鑑みた、いじらしい行



図1：しんじょう君着ぐるみ全身像
(須崎市役所HP⁶⁾より画像を取得し、筆者が若干の説明を加えた)

動様式や物語の展開を予感させる設定が付されており、単に見た目のかわいさや、ネーミングの語感の良さだけで人々を引き付けようとしているものではないことが分かる。この点に関して、例えば池田(2012)は、観光資源にめぐまれない自治体では、ゆるキャラに添えられる「背景」がキャラクター運用において重要であり、地域独自の「物語」をキャラクター化することでこれをも観光資源化できることを指摘している⁷⁾。このようにゆるキャラは、地域特産物等のPRにとどまらず、地域に愛着や愛情をもってもらえるよう企画されたものが多い。

ここで、吉見(2020)は、ゆるキャラの持つ経済的な効果に目をつけた自治体による不適切な運用を指摘しており、ゆるキャラグランプリにおける組織票の問題などを挙げながら、本来の意味からかけ離れた定義の上でのゆるキャラ運用に警鐘を鳴らしている⁸⁾。しかしながら、このゆるキャラが持つ独特な特徴は、特に「愛着」を想定した教育活動に応用できる教材的な価値を持つ可能性が高いと教育機関や教員に認識されているのか、現在まで様々な取り組みがなされている。それでは、このような事例をいくつか紹介したのち、筆者が実践した内容に言及していくこととする。

3. ゆるキャラを用いた教育実践例

3. 1. 小学校：学校ゆるキャラ作りなど

さて、インターネットで「小学校 ゆるキャラ」と検索すると、学校の特徴を表したゆるキャラが多くヒットする。その中には、ゆるキャラグランプリに登場したものも存在し、例えば泉大津市立立戒小学校のゆるキャラ「エビスん」は、児童の手によって作成されたもので、学校型の帽子をかぶり、校章がシャツに縫い付けられている⁹⁾。同様の例として加西市立北条小学校の「ならみー」は、校歌にも登場する「ならの木」の実の形状をしたボディデザインとなっている¹⁰⁾。

また、愛知県一宮市のゆるキャラ「いちみん」は、同市教育文化庁教育課が、児童・生徒に市に対する愛着や帰属意識を芽生えさせることを目的として、副読本の「わたしたちのまち一宮(小学校社会科)」に表紙を含めて登場しているという¹¹⁾。もちろん、ゆるキャラを用いた小学校での教育実践もみられ、主にゆるキャラの意匠から、地域の特徴を見出す活動に利用されている小学4年生社会科の学習指導案が公開されている¹²⁾。

以上のようにゆるキャラは、それを児童が作成する活動や、学習効果を高めるための既存ゆるキャラの活用など、すでに小学校の教育現場においてもある程度浸透してきている存在であると考えられる。

3. 2. 中学校美術科における事例

中学校でも 3.1.で述べたような、小学校と同じ傾向がみられ、インターネット検索で「中学校 ゆるキャラ」で検索すると、学校の特徴を表したゆるキャラが多くヒットする。このような傾向は高等学校でも確認でき、もはや「学校ゆるキャラ」を作成することは、特に珍しい活動ではなくなっているのかもしれない。愛校心を育む活動の一環と考えられるが、その考察は推察の域を出ないので詳しい言及は本稿では避ける。

中学校の学習課程でゆるキャラを導入した実践として、美術科での事例が興味深い¹³⁾。グループを組んでMYゆるキャラなるものを立体物で作成し、これを映像作品化した事例である。ゆるキャラによる「自己紹介、物語の作成、演技、撮影、

鑑賞会」の、それぞれの過程の活動を通じて、生徒は生き生きとした姿を見せ、作品を作り上げるためのコミュニケーションを促進させたとのことで、ゆるキャラの作成には愛着を育む以外にも、生徒の整合希求性を満たす教材としても利用できそうである¹³⁾。

3. 3. 大学教養教育での事例

大学においてもゆるキャラは教育教材として利用されている。大倉(2014)による大学教養教育での実践では、大学1年生を対象に、長崎大学のPRゆるキャラの作成を通じて、調査力、企画力、プレゼンテーション力および団結力を養成する授業作りがなされていた¹⁴⁾。また、同氏はゆるキャラ作成とは、単にかわいいキャラを描くということではなく、キャラのコンセプトや売り出し方が重要であり、ゆるキャラ作成のための企画書作りが非常に重要である点を強調している。後述するが、筆者が実施したゆるキャラ巡検では、この点を強調しなかったために、筆者が意図しなかったゆるキャラが1体作成されてしまった。

4. ゆるキャラ巡検実践内容

4. 1. 2017年度地理学Ⅰの内容の概説

地理学Ⅰの講義は当時、選択必修科目として開講されており、主に小学校教諭を目指す学生が履修していた。2017年は履修者24名中、20名が教員を志望していたため、将来を見越して、特に生活科の「まちたんけん」に対応した講義内容とした。なおこの講義は、当時、ある程度自由な裁量で内容を決定できたため、演習・実習形式をメインとして実施した。ゆるキャラ巡検を核とする講義の流れと概要を表1に示す。本講義は最終的に、島原市の商店街のゆるキャラを作成することを目的とはしているものの、もちろん地理学的な調査方法の基礎を学ぶことができる内容としている。

まず、2017年の講義の前半は、主に本番の島原巡検に向けた訓練を行った。地理学的な調査方法の習得を目指して、学内と西南画院大学近傍の西新商店街でプレ巡検を実施した。なお、これらの

表 1 2017 年実施地理学 I の講義概要

講義形式	主な内容
講義	ガイダンス
演習	班ごとに調査内容を選定
演習	商店街聞き取り調査シートの作成
実習 (調査)	調査練習 1～大学構内たんけん
演習	大学構内たんけん発表会
実習 (調査)	調査練習 2～西新商店街たんけん
演習	西新商店街たんけん発表会
演習	調査シートや調査方法の再検討
講義	巡検前説明会等
実習 (調査)	ゆるキャラ巡検(本番)
演習	商店街調査結果発表会
演習	ゆるキャラ作成
演習	ゆるキャラ発表会

活動は、生活科の内容を生徒として経験できる形式としており、学内たんけんは、「がっこうたんけん」に、商店街たんけんは「まちたんけん」にそれぞれ準拠している。学生はこれらの調査を通じて、特に地域の特徴を明らかにするための必要最低限の地理学的な野外調査方法である、メモやスケッチのとり方、写真の撮り方、聞き取り調査の方法を習得することとなる。また、机上作業としてはマッピングや統計処理の方法を学ぶ。例えば図 2 は、西新商店街で店舗調査した結果を、表計算ソフトである Microsoft 社の「Excel」を用いて受講者が地図化したものである。このように、本講義では簡易的なデジタルマッピングまで習得できる内容とした。調査や解析作業は 5 名程度のメンバーで構成される班活動とした。なお、本稿はゆるキャラの作成に関する実践報告を主に行うため、講義前半の学習活動の詳細な報告は割愛する。

次に、本講義後半では、島原市の商店街において野外巡検を実施し、店舗のシャッター率の調査や、ゆるキャラ作成のための特産品や観光資源の

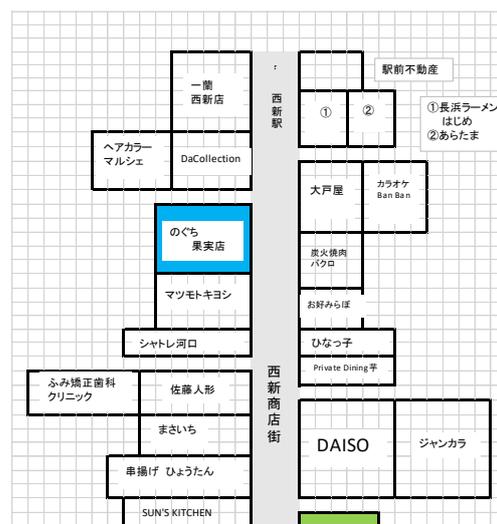


図 2 : 受講者が作成した西新商店街デジタルマップの例

発掘を、聞き取り調査等を通じて行った。その後、班ごとに調査結果をもとにゆるキャラの作成を行い、第 14 回目では、ゆるキャラの発表会を行った。以上が、本講義全体の概要である。

4. 2. ゆるキャラ巡検の実際

2017 年 6 月 17 日に、長崎市島原市にてゆるキャラ巡検を実施した。同市には、露天型の商店街もあるが、天蓋型のアーケード商店街もある。両者ともに昨今の地方商店街では日常の風景となつつある「シャッター商店街」化してしまっている感がある。写真 1 は、前日入りした同年 6 月 16 日の午後 5 時頃撮影したものであるが、人通りがほとんどない、閑散とした空間が広がっていた。

島原市の市街地に位置する商店街は、5 つのセクションに分かれていて(図 3)、それぞれに「特長」「観光資源」「郷土料理」等が存在するはずである(と、受講者には重々伝えてある)。これらを丹念な調査のもと掘り起こして、それぞれの商店街の特徴を捉えた、親しみのあるゆるキャラ作りを命じた。その際ことさら、店舗等に入店して地域の人と話をしたり、商店街のものを食べたりすることを強調して事前指導を行った。そのような指導



写真1：島原市における商店街の景観
(2017年6月16日 著者撮影)



写真2：鯉が傍らに泳ぐ商店街にて、購入した洋菓子を食べる受講者
(2017年6月17日 著者撮影)



図3：島原市の商店街マップ

(島原市商店街連盟 HP¹⁵⁾より画像を取得したものを、筆者が一部抜粋して掲載した)

のもとに、受講者は担当する商店街に赴き、約半日をかけて、ゆるキャラ作りの材料を、地域と積極的に関わりながら探し求めることとなった。写真2に写る受講者の様子を見てみると、積極的に地域に溶け込んで、楽しみながら巡検を遂行している様子がうかがい知れる。それでは次章より、実際に受講者(班)が作成したゆるキャラのすべて

を紹介しつつ、これらについて若干の考察を行うこととする。

5. 受講者が作成した各ゆるキャラの紹介

本章では、各班が作成した、森岳商店街、サンシャイン中央街、一番街、湊道商店街及びみなと商店街(図3)のゆるキャラを紹介しつつ、みなと商店街については指導上の反省点を述べる。

5.1. 森岳商店街「青い理髪店のモモちゃん」

ゆるキャラを図4に示す。ネコがモチーフとなっており、さらに、森岳商店街にある無料休憩所にいる高齢ネコで彼氏の「カツオくん(写真3)」に依頼をうけてPRを行っているという物語が添えられている。「青い理髪店」とは、大正12年に建築された木造洋風建築物の「青い理髪館」のことで、現在は長崎県の登録有形文化財に指定してある、モダンな建物である。なお、ゆるキャラ名は「店」となっているが、これは単純に受講者の間違いかと思われる。この1階はすでに理髪店としての役割は終え、代わりに「喫茶店モモ」が営業されており、かんざらしなどの島原銘菓を食べることができる¹⁶⁾。

さて、このモモちゃんであるが、キャラクター設定が多く、多少情報を詰め込みすぎた感があり、説明を受けないと理解できない物体、例えばハサ



図4：青い理髪店のモモちゃん



写真3：無料休憩所にて、ネコの「カツオくん(写真中央)」を見物する受講者
(2017年6月17日 著者撮影)

ミ、マドレーヌがデザインされていることから、今回作成されたゆるキャラの中では、みうらじゅん氏が言及した本来の意味での「ゆるゆる」を表現しているようにもみえる。

5. 2. サンシャイン中央街「湧子ちゃん」

ゆるキャラを図5に示す。湧子と書いて、ゆうこ、と読む。その名の通り湧き水がモチーフとな



図5：湧子ちゃん

(プロフィール)

身長 156cm

体重 ひ、み、つ

- 特徴
- ・湧水でできているので透明
 - ・おなかに鯉が泳いでいる。
 - ・頭には、優しい商店街の人からもらったお花をつけている
 - ・褒められたらなんでも頑張る。

っていて、湧水豊かな島原市の特徴を表現している。この商店街には水路が脇に走っている箇所があり、そこにインスピレーションを受けて作成されたものと考えられる。お腹には鯉が泳いでおり、水路でよく見られる錦鯉が表現されている。この水路と錦鯉は、地域の町内会が中心となって維持・管理が行われており、「鯉の泳ぐ街」として、市内の数カ所設定され¹⁷⁾、観光客のみならず、地域住民の方にも清涼感をもたらす地域資源となっている。湧子ちゃんに関しては物語性のようなものは設定されていないように思われるが、透明で清らかな湧水をテーマにした、親しみのあるキャラに仕上がっている。なお、頭部の花飾りは「商店街の人につけてもらった」とのことで、ここに若干の物語性は認められる。



図6：かんざらしのかんちゃん



写真4：かんざらし作り体験の様子
(2017年6月17日 著者撮影)

5. 3. 一番街「かんざらしのかんちゃん」

ゆるキャラを図6に示す。島原銘菓の「かんざらし」をモチーフとしたゆるキャラで、これを作成した班が体験したかんざらし作りにインスピレーションを受けて作成したものと考えられる(写真4)。水路を泳ぐ鯉とともに描かれており、多少の物語性を感じさせる。デザインはかんざらしの団子の形状そのままに、ちょっとした足と目口を配置しただけのものとなっており、説明がないと何をモチーフとしているのか、不明である。

5. 4. 湊道商店街「ミニャト君」

ゆるキャラを図7に示す。ネコがモチーフとなっており、名前は湊道(みなとみち)商店街の言葉遊びからきていると推察できる。他班がフルカラーで作成されているのに対し、ミニャト君はモノクロである。身体は家屋が並ぶデザインで、これは湊道商店街に並ぶ家屋を表現しているという。

設定

- ・湊道商店街が栄えていたころはアイドル的な存在だった
- ・今は商店街が廃れているので文字通り体を使ってアピールしている
- ・首輪には鈴の代わりに川井印房店の判子をぶら下げている
- ・好物は佐々木商店のお菓子
- ・湊道商店街を再び栄えさせる野望を持っている

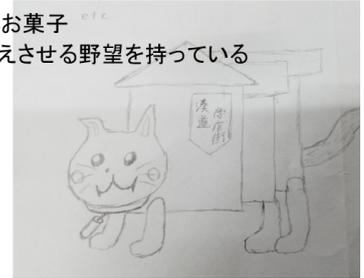


図7：ミニャト君

また、よくみると首輪に印鑑があしらわれているが、これはこの班が聞き取り調査を行った川井印房店に由来する。

意匠から物語性はあまり感じられないが、設定が多く盛り込まれたキャラクターとなっていて、みうらじゅん氏が言及するところの「ゆるゆる」を体現しているようにも感じる。

5. 5. みなと商店街「来い」

ゆるキャラを図8に示す。この班は、ただ「鯉」のみ描き、名前は「商店街に来てほしい」という願いを込めて「来い(こい)」としてある。絵画的には上手なのかもしれないが、ゆるキャラの定義からは大きく外れるデザインとなっている。なぜこうなってしまったのか、その理由としては「事前指導の不徹底」が挙げられる。

この講義を行った当時、事前指導やゆるキャラの企画段階において、授業者の黒田が、みうらじゅん氏が言うところの「ゆるゆる」を説明しなかったことと、イラストとしての絵の上手さより、地域(商店街)の特徴を簡潔に反映した、親しみのもてる図案とすべき旨を強調しなかったことが、「来い」を生み出してしまった原因と思われる。このことは、先述した大倉(2014)の主張と調和的で、ゆるキャラ企画の段階で、コンセプトやPR方法の方がむしろ重要である点¹⁴⁾を熱心に説かないと、授業者が意図しないゆるキャラが作成される可能性が高いだろう。



図8：来い

5. 6. ゆるキャラの総括

本節では、ゆるキャラ巡検によって作成された、島原市の商店街をテーマとしたゆるキャラについて、若干の評価と考察を行う。

表2に、全班が作成したゆるキャラの一覧と、それぞれの特徴を示す。「来い」以外は「ゆるゆる」さがあるように感じるが、これはあくまで筆者の主観や趣向が大いに入っているの、参考程度の言及にとどめたい。

さて、あらためて表2を眺めてみると、ぼんやりではあるものの、島原市をPRしているような表に見える。美しい水郷であり、その水路には優雅に鯉が泳ぎ、ネコが歩き回る牧歌的な雰囲気が想像できる。実際、商店街にはネコが多く闊歩しており、ところどころにネコに関する注意書きがみられた(写真5)。また、由緒ある建造物でゆっくりお茶を楽しむことができ、清らかな湧き水を用いた銘菓をいただける予感もする。このように、作成されたすべてのゆるキャラを俯瞰的に見れば、本巡検が意図するところの「商店街の特徴を捉えた、親しみのあるゆるキャラ作り」は達成できたと思われる。ただし、「来い」にみられるように、事前準備が不徹底であると、巡検企画者の考えや、みうらじゅん氏が言うところの「ゆるゆる」なキャラとは異なるキャラが作成されることがあることが判明したので注意が必要である。

なお、このゆるキャラ巡検に関しては、独自に学生アンケートを実施しており、本来ならばこれを用いて教育の効果について言及せねばならないところであるが、本稿は巡検実践の報告にとどめ、



写真5：注意書きと湧水(写真右下)

(2017年6月17日 著者撮影)

その評価については別稿に譲ることとする。

6. まとめ

本稿では、地域をよりよく調べようとする探求心を児童に育むことができる教員輩出を願って実施した、ゆるキャラ作成に主眼をおいた地理巡検の実践報告を行った。さらに、学生が巡検の調査結果をもとに作成したゆるキャラを紹介するとともに若干の考察を行った。以下に本稿をまとめる。

- 1)ほとんどの班は商店街や町の特徴を捉えたゆるキャラを作成した。しかし、みなと商店街を調査した班のみ、擬人化もすることなく、上手な鯉のみを描いてきた。
- 2)その原因の一つとして、絵の上手さより、商店街の特徴を反映した親しみのもてる図案とすべき旨の説明を強調しなかったことに原因があると考えられる。
- 3)また、事前指導において、みうらじゅん氏が言うところの「ゆるゆる」を授業者が理解し、それを受講者に伝えないと、定義上のゆるキャラを作成させるのは難しい。
- 4)今回作成されたゆるキャラ全体を俯瞰的にみても、「商店街の特徴を捉えた、親しみのあるゆるキャラ作り」という目標は達成できたと考えられる。

表2：作成されたゆるキャラの一覧及びその特徴

ゆるキャラ	名前の由来	デザインの概要	物語性	ゆるゆるさ
モモちゃん	喫茶店「モモ」より	ネコ型。ボディカラーは文化財の青い理髪館より	彼氏の老齢ネコであるカツオ君に頼まれて町をPR	ある
湧子ちゃん	島原市各所にみられる湧き水より	水路を泳ぐ鯉を配置し、清流をイメージさせる青いボディカラー	特にないが、商店街との関りを感じさせる	ある
かんちゃん	島原市の銘菓、かんざらしより	団子型	鯉との触れ合いがみられる	ややある
ミニヤト君	湊道商店街より	ネコ型。商店街をイメージしたボディデザイン	特になし	ある
来い	水路を泳ぐ鯉より	上手に書かれた鯉	特になし	ない

5)本巡検の受講者による評価を分析し、ゆるキャラ作成を目的とした商店街調査が教育的な価値を持つかを検討する必要があるが、これは今後の課題としたい。

参考文献・参考 website

- 1) 北澤尚・米元大輝(2016):「「ゆるキャラ」ネーミングの形態論」東京学芸大学紀要., 人文社会科学系 I, 67, 49-57.
- 2) 黒田圭介・宗建郎(2017):「調査結果を「ゆるキャラ」作成でまとめる小学校生活科教育に主眼を置いた地理巡検実践報告」日本地理学会 2017 年秋季学術大会要旨集, 92 巻.
- 3) 黒田圭介・宗建郎(2017):「小学校生活科の教材研究を意識した地理巡検実践-商店街聞き取り調査を例として-」2017 年度日本地理教育学会第 67 回大会発表要旨集.
- 4) みうらじゅん(2004):『ゆるキャラ大図鑑』扶桑社.
- 5) 島原市役所:「島原守護神「しまばらん」プロフィール」
<https://www.city.shimabara.lg.jp/page2843.html>, 2023 年 1 月 29 日最終閲覧.

6) 須崎市役所:「しんじょう君 OFFICIAL WEBSITE」

<http://shinjokun.com/>, 2023 年 1 月 29 日最終閲覧.

7) 池田拓生(2012):「地域振興におけるキャラクター運用に関する一考察-鳥取県米子市・境港市におけるキャラクターの活用-」首都大学東京大学院都市環境科学研究科, 観光科学研究, 5, 127-135.

8) 吉見憲二(2020):「ゆるキャラの過激化に関する一考察」佛教大学, 社会学部論集, 70, 119-128.

9) ゆるキャラ®グランプリ実行委員会:「ゆるキャラグランプリ official website ならみー(大阪府)」
<https://www.yurugp.jp/jp/vote/detail.php?id=00003693>, 2023 年 1 月 29 日最終閲覧.

10) ゆるキャラ®グランプリ実行委員会:「ゆるキャラグランプリ official website エビすん(大阪府)」
<https://www.yurugp.jp/jp/vote/detail.php?id=00001671>, 2023 年 1 月 29 日最終閲覧.

11) 大野元義・磯野巧(2019):「愛知県一宮市における地域コンテンツの役割 -ゆるキャラ「いちみん」を事例として-」三重大学教育学部研究紀要, 70, 61-73.

12) やまぐち総合教育支援センター:「第4学年2組 社会科学習指導案」

http://www.ysn21.jp/teacher/shidouin/video/h25_yamane/yamane.pdf, 2023年1月29日最終閲覧.

13) 春野修二・笠原広一(2016):「中学校美術科教育における関係性を育むワークショップ実践の研究(3)-MY ゆるキャラを用いた映像制作の実践を通して-」福岡教育大学紀要.第6分冊, 教育実践研究編, 65, 1-4.

14) 大倉真人(2014):「「社会人基礎力」育成のための教育プログラム -「ゆるキャラ作成」を題材として-」長崎大学経済学会, 経営と経済, 94(1-2), 41-56.

15) 島原市商店街連盟:「島原市商店街地図」
<http://www.motenasu.com/map/>, 2023年1月29日最終閲覧.

15) 青い理髪館 工房モモ:「青い理髪館 工房モモ大正レトロ Café」
<https://www.rihatsukan-kobomomo.com/>, 2023年1月29日最終閲覧.

16) (一社)長崎県観光連盟 長崎県文化観光国際部観光振興課:「長崎旅ネット 鯉の泳ぐ街」
<https://www.nagasaki-tabinet.com/guide/955>, 2023年1月29日最終閲覧.

註釈

1)2010年から2020年まで開催されていた, 投票によって人気のゆるキャラを決定する, いわゆるゆるキャラの全国大会である。詳しくは, ゆるキャラ®グランプリ実行委員会の official website(URL: <https://www.yurugp.jp/jp/>)を参照されたい。

(2023年1月31日 受理)